



2020年11月13日

各位

会社名 株式会社フリークアウト・ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 Global CEO 本田 謙
 (コード番号：6094 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 C F O 永井 秀輔
 (TEL. 03-6721-1740)

**為替差損の計上並びに通期連結業績予想数値と
 実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、2020年9月期において為替差損の計上を行い、2019年11月14日に開示した2020年9月期(2019年10月1日～2020年9月30日)の通期連結業績予想数値と実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 為替差損の計上

為替相場の変動により、2020年9月期第4四半期連結会計期間において、為替差損として108百万円を営業外費用に計上いたしました。

その結果、当連結会計年度において、為替差損として130百万円を営業外費用に計上しております。

2. 2020年9月期 通期連結業績予想数値と実績値との差異

(2019年10月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	EBITDA	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益
前回発表予想(A)	百万円 27,000	百万円 200	百万円 200	百万円 500	百万円 —	円 銭 —
実績(B)	24,878	211	△221	510	△669	△42.0
増減額(B-A)	△2,121	+11	△421	+10	—	—
増減率(%)	△7.9%	5.7%	—	2.2%	—	—
(参考)前期実績 (令和元年9月期)	21,709	△1,270	△1,497	△491	△3,512	△233.5

3. 差異の理由

売上高につきましては、新型コロナウイルスによる広告需要の鈍化の影響を受け、24,878 百万円と 2019 年 11 月 13 日に開示した業績予想値と比較して、2,121 百万円(△7.9%)の減収となりました。一方で、営業利益及び EBITDA につきましては、同じく新型コロナウイルスの影響を受けたものの、国内広告事業が第 4 四半期は順調に回復したこと、海外広告事業が第 4 四半期で大幅に成長したことなどから、業績予想値を超過しており、大きな乖離はございません。経常利益につきましては、「1. 為替差損の計上」に記載の営業外費用の計上の影響に加え、資金調達費用及び持分法適用関連会社において新型コロナウイルスの影響を受けたことによる持分法投資損失を計上したことに伴い、予想を下回ることとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、従来予想値を公表しておりませんが、上記の影響により、2020 年 9 月期通期で△669 百万円となりました。

以上